



大玉村【福島県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成29年3月 ■ 人口：8,583人 ■ 面積：79km²
■ 担当課：大玉村教育委員会 生涯学習課（平成30年3月現在）



大玉村の歴史文化基本構想のテーマは「安達太良山とともに生きる輝かしい大玉村」とし、指定・未指定文化財に関わらず全ての文化財を「おおたま遺産」として捉えた。自然、歴史、産業、民俗芸能、伝承、風俗慣習という6つの視点で捉えた「おおたま遺産」の状況と歴史文化の特性から、4つの保存活用区域「あだちの王の里」・「いぐねの里」・「トロッコ道の里」・「源流の里」を設定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

安達太良山、いぐね(屋敷林)、生活に密着した風俗慣習、
密集した古墳群、森林鉄道

課題

- ・ おおたま遺産に対する意識の向上、価値や情報の共有
- ・ おおたま遺産の生涯学習・学校教育との連携、観光資源としての活用

保存活用方針

- ・ おおたま遺産の価値を共有し、歴史と文化を活かした村づくりを推進
- ・ 住民、専門家、行政などの協力と参加を得た保存・活用の実施

保存活用のための取り組み

歴史と文化を活かしたむらづくり推進

住民一人ひとりが「おおたま遺産」の価値を共有するため、地元を学ぶ「おおたま学」を立ち上げ、村の歴史・文化・自然・人物等について情報を提供し学ぶ機会の拡充を図る。「おおたま遺産」の魅力を広く発信して、観光資源としての活用を図る。



住民の主体的な保存・管理と継承発展活動の支援

「おおたま遺産」の保存・管理は、住民の暮らしとともにあることが重要である。住民の意思によって住民が主体となり保存・管理を図り、地域ぐるみで文化財の盗難や汚損等防犯意識の向上を図る。さらに、世代を超えた継承発展活動を支援する。



学校教育・生涯学習における「おおたま遺産」の活用

「おおたま学」の活用とともに、子どもを対象に地元を学ぶ郷土学習資料集「おおたまを学ぶ」を作成する。子どもたちがふるさとの自然、歴史、産業、民俗、文化に触れ、ふるさとへの愛着を育み、大切にすることにより、子どもたちによる伝統や文化の継承に繋げる。



村内の施設やSNSを活用した情報発信の充実

様々な魅力ある「おおたま遺産」の情報を歴史民俗資料館「あだたらふるさとホール」や「あだたらの里直売所」、観光施設「アットホームおおたま」等において発信し、さらにSNS等を活用し情報発信の充実を図る。



▲ 保存活用区域



文化財の状況と歴史文化の特性から4つの保存活用区域を設定し、いずれも観光資源として活用を考えている。

- あだち王の里 狭い範囲に古墳が密集し、時代の幅が広く造られている。
- いぐねの里 いぐねは郷愁を誘い、郷土愛や誇りの醸成ができる。
- トロッコ道の里 豊かな森林資源がもたらした。
- 源流の里 源泉地帯で歴史・自然・暮らしを支えている。

保存活用区域

- ①あだちの王の里
- ②いぐねの里
- ③トロッコ道の里
- ④源流の里

▲ 策定後の成果（見込まれる効果）

- ① 「おおたま遺産」の価値を共有するため、地元を学ぶ「おおたま学」や郷土学習資料集「おおたまを学ぶ」を作成し活用する。価値の共有が、地域への理解を深め、ふるさとへの愛着を高め、郷土愛を育み、伝統や文化を継承する人材育成につながる。



- ② 関係部局との連携による村づくり
本構想は、大玉村総合振興計画等と整合性を図りながら策定している。安達太良山の麓で築かれた「おおたま遺産」を核として、関係部局と連携協力し新たな村づくりへの取り組みを行い、大玉村のアイデンティティーを明確にし、新たな魅力ある村づくりに寄与することができる。



- ③ 周辺都市との広域的な連携協力
本構想では大玉村域にある「おおたま遺産」を対象としているが、歴史や文化は大玉村域で完結しているわけではない。大玉村と同じく安達太良山の麓にある二本松市や本宮市等と連携し、広域的に文化財の保存・活用を図ることで、なお一層の歴史や文化の魅力の創造が見込まれる。

